

災害メモリアルアクションKOBE

# ACTION 2016

集める・伝える・活かす

# 目次

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 開会のあいさつ .....                   | 1  |
| 兵庫県立舞子高校 .....                  | 2  |
| 国立明石工業高等専門学校 防災団 .....          | 3  |
| 兵庫若者防災ネットワーク .....              | 6  |
| 神戸学院大 現代社会学部 社会防災学科 船木ゼミ .....  | 8  |
| 関西大学 社会安全学部 近藤研究室 .....         | 11 |
| スペシャルプレゼンテーション 松陰高等学校 放送部 ..... | 13 |
| パネルディスカッション .....               | 14 |
| 閉会のあいさつ .....                   | 20 |
| チラシ .....                       | 21 |
| 委員・学生名簿 .....                   | 23 |
| 交流会 .....                       | 25 |



主 旨

# 災害メモリアルアクション KOBE ACTION2016 「神戸のコトバ」

プログラム

日 時：平成28年1月9日  
開会 午前10時00分



## 開会のあいさつ



牧委員長

皆さん、あけましておめでとうございます。神戸の場合、1月17日を越えないと、新しい年が来ないような気もいたします。今年の1月17日で阪神・淡路大震災から21周年になり、皆さんも、震災から21歳を加えたこととなります。今日、活動報告される若いメンバーの方は多分、生まれていない。それが21年という年だと思えます。

今回の「災害メモリアルアクションKOBÉ」は、単に今年から始まったイベントではありません。阪神・淡路大震災の翌年の1996年から「メモリアル・コンファレンス・イン神戸」という名称で、始まりました。震災後、最初の10年間は、今の東北の被災地と同じで、災害復興をどう進めていくのかがテーマであったように思います。災害にかかわる人たちは、いろんな専門分野の方がいて、土木、建築だけではなく、医療の方、ボランティアの方、介護の方もいます。そういった災害復興のために働いている人たちが、お互いに情報交換をするような場所を築いていこうというのが、「メモリアル・コンファレンス・イン神戸」の重要な役割だったと思えます。

10年間「メモリアル・コンファレンス・イン神戸」が続き、11年目からは、今日、後のパネルディスカッションにも御登壇いただく矢守先生と私などで「災害メモリアルKOBÉ」というイベントを開始しました。

「メモリアル・コンファレンス・イン神戸」を中心的に進めていた先生方は、人と防災未来センター長の河田先生と防災科学技術研究所理事長の林先生で、次に引き継ぐということで、メッセージをいただきました。「次世代に、この阪神・淡路大震災の教訓を伝えよ」と。やはり、東北の震災の復興を見ていると、完全にうまく伝えられなかったのかなという思いです。とにかく、どういう形で、この大変な経験を次世代に伝えていくのか考えながら、10年間活動してきました。その途中で、中越地震や東日本大震災という災害もあったわけです。

震災10周年から20周年まで、「災害メモリアルKOBÉ」の活動を続けました。その中で、学んだ重要なことのひとつは、震災を経験した大人の言葉で、次世代の子供たちに伝えても、なかなかうまく伝わらないということです。だからこそ一旦、次世代の若い世代の方が自分たちで翻訳をして、伝えるというのが良いのだと思えます。ふたつめは、コミュニケーションをすることの重要性です。

今回、震災21年目から「災害メモリアルアクションKOBÉ」を始めます。今回のミッションのひとつとして考えているのは、南海トラフ巨大地震です。以前は発生まであと30年といわれていたのですが、本当に、あと10年、「災害メモリアルアクションKOBÉ」を続けている間に、起きるかもしれません。この「メモリアル」という言葉は、今回も使い、その先に「アクション」をつけたのは、伝えるだけではなく、この神戸で学んだことを、いかに、防災に活かしていくのかという思いがあったからです。

メンバーも、完全に若返り、20代から30代の方々为主に今回の企画委員です。最初の企画会議において今回活動された学生さんに、「伝えるということ」を、どのように「アクション」していくのかというところから考えていただくこととしました。また、そのためのキーワードとして「神戸のコトバ」という全体テーマを掲げました。

ここ関西にいる私たちの最大の利点・強みは、震災を経験された方々の生の言葉をまだ聞くことができるということです。次の10年の方は、難しくなるかもしれませんが、この先10年活動される方は、神戸で本当に被災をされ、苦勞された方々の言葉を生で聞くことができる。この強みを生かすのが、今回のテーマの良さだろうと思えます。

このとりくみは継続させていくことが重要です。最初の頃は、試行錯誤するのですが、皆さんの御協力で、非常にすばらしいアクションを次に伝える防災のための教材ができてまいりました。今日は、皆さんに見ていただき、今後、私たちはどのように活動すべきかディスカッションをさせていただきたいと思えます。

# 兵庫県立舞子高校



## 災害メモリアルアクション KOBE 舞子チーム

### ～舞子チーム紹介～

私たちは、阪神・淡路大震災についてもっと知りたいと思い集まったチームです。次の災害でその人にとって最良の判断ができるように、またその選択肢を増やすために神戸のコトバを伝えようと活動しています。最良の判断とは、災害で死なないことではなく後にその人が後悔をしないことだと考えました。津波の被害が今、注目されていますが津波がくる前に地震が来ます。その地震を中心に考え、阪神・淡路大震災が起こった瞬間の判断、行動を次の世代に伝えたいと思います。

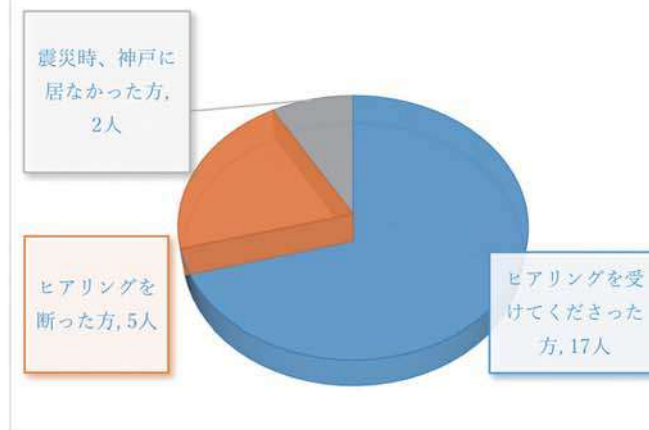
### ～知る～

私たちは、「神戸のコトバを知る活動」の手法として、街中ヒアリングを選び、11月28日・29日の2日間、垂水駅前で開催しました。その中で、以下のことを知ることができました。

#### ヒアリングでお聞きした内容

- ・ 年齢
- ・ 震災当時住んでいた場所
- ・ 阪神・淡路大震災が発生した瞬間にとった行動
- ・ 揺れている時に何を考えたか
- ・ もしこの瞬間に地震が起きたら、あなたはどんな行動をと

#### ヒアリング結果 (人数)



#### ヒアリング結果 (一部抜粋)

阪神・淡路大震災後何年かは、備えをしていたけれど今はしていない

阪神・淡路大震災当時は、県外にいた。発生当日は普通に学校に通学し、授業が行われた

発生した瞬間は、なるようにしかならなかったと思う  
起きたときは、起きたとき。



#### メンバーの感想

震災を経験した人でさえ、「起きたら起きたとき」と考えていることに驚いた

自分の周りの人々も、「備え」をしている人がいないので、やっぱりと思った

また、このヒアリングにご協力していただいた方に、次の世代に伝えたい一言を書きいただきました。





# 国立明石工業高等専門学校 防災団



私たちは  
「神戸のコトバ」を取り入れた  
防災ゲームを製作しました！

プロジェクトリーダー  
渡部桂太郎



# D-PRO135°

明石高専防災団  @135\_d\_pro  
 facebook.com/d.pro135.e

## これまでの活動 Past Activities

### D-PRO135°の発足と 災害メモリアルアクション KOBE への参加

明石高専生による防災組織D-PRO135°の発足は昨年7月21日でした。

防災士資格を持った学生が、地域の防災活動などに貢献したいという思いや学内での防災意識の向上に努めたいという考えから、有志9名（機械工学科3名、都市システム工学科5名、建築学科1名）の学生により活動がスタートしました。

### 防災ゲーム『SECOND HAZARD』の製作

8月から本格的に活動を開始し、防災や減災などをより身近に感じてもらえるようにするため、防災ゲームの製作をすることに決めました。また、11月には東日本大震災により甚大な被害を受けた福島県の浜通り地方を訪れ、復興に向けて少しずつ歩みを進める被災地の現状を目にしました。

所属人数は現在では15名になりました。

依然として少人数の組織ではあるものの、それぞれの学生が持つ能力を存分に発揮し、日々活動に励んでいます。



Disaster - PRevention Organization 135°

# このゲームについて

About the Game

災害時は身の回りにある、ありとあらゆるものが役に立ちます。

この『SECOND HAZARD』には、大きな震災を体験したことのない人達でも、災害を身近に考えて、その時何をすればいいのかを自分で臨機応変に考える力や選択する力を身に付けてほしい、という私たちの思いが込められています。

また、実際に震災を経験された方に伺った話を基に盛り込んだ「神戸の知恵カード」には、被災時に役立ったアイテムと共に当時の経験談を記しています。

製作と同時に私たちも学んだたくさんの「神戸の知恵」。ぜひゲームをしながら学び取ってください。

# SECOND HAZARD

セカンド・ハザード

↑マップ配置の一例



# ルールの概要

About Rules

## 1. 準備 (1)

- ①マップボードを好きなようにセットする。
- ②川の両岸に道がある場所へ、好きな番号の旗をセットする。
- ③「グッズカード」「二次災害カード」「神戸の知恵カード」をそれぞれシャッフルし、ウラ面を上にして、ゲームボードの横へおく。



## 2. 準備 (2)

- ①スタート場所をじゃんけんで決め、自分のコマをおく。
- ②プレイヤー全員がグッズカードを3枚ずつもらう。
- ③じゃんけんで勝った人から順に、時計回りで始める。



## 3. 避難開始!

- ①「進む用」と「イベント用」の2つのサイコロをふる。
- ②「防災倉庫」の敷地内に入ると、グッズカードを3枚もらえる。1度入ったことのある防災倉庫から、同じプレイヤーが再びもらえない。
- ③イベント用のサイコロは、出た目によって次の指示にしたがう。

イベントサイコロのマス目の種類

- ①グッズカード
- ②二次災害
- ③神戸の知恵カード



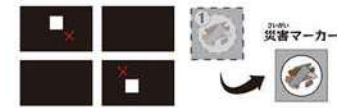
## 4. イベント用サイコロの目について

- ①「グッズカード」を山札から1枚ひく。
- ②「二次災害カード」を山札から1枚ひき、カードの内容をよむ。指示にしたがったら、カードは元の山札に戻す。
- ③もう1度サイコロをふる。再びこの目が出たら、「神戸の知恵カード」を1枚ひくことができる。



## 5. 二次災害発生!

- ①災害の発生場所が決まったら、そのマスに「災害マーカー」をおく。そのマスは「グッズカード」や「神戸の知恵カード」を使わない限りどのプレイヤーも通れなくなる。
- ②発生場所にコマがあった場合は、そのプレイヤーは1マス下がり、グッズカードを1枚山札の1番下にもどす。



## 6. 災害を乗り越えるには

- ①災害マーカーのマスは、「グッズカード」や「神戸の知恵カード」をプレイヤーの半分以上が所持する使い方をすれば、通れる。
- ②半分より少なかった場合は、マーカーの手前のマスでコマを止める。
- ③半分以上に納得してもらい、使うことができた「グッズカード」は山札の1番下にもどし、新しく「使ったグッズカード枚数」×2枚分のグッズカードをもらう。「神戸の知恵カード」は山札にもどす必要はない。



## 7. 「神戸の知恵カード」とは

- ①「神戸の知恵カード」は、カード内で示されたグッズなら何個でも使うことができ、使っても、なくならない特別なカードである。
- ②津波や土砂崩れに巻き込まれ、スタートにもどされた場合には、このカードもグッズカードと一緒に山札へもどす。



## 8. 避難所へ到着!

- ①ゴールである避難所(公民館)にたどり着いたら上がり!

### 避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

避難所へ到着!

## 製作担当一覧

- 全体統括 渡部桂太郎
- ボードデザイン 松本拓実、松家雅大
- ボード製作 東根裕、松尾彰太、福原達也、村岡壮志、松本未来、土田晃平
- 災害マーカー製作 今井美佑、曹智子
- カード製作 関明香デザイン
- 二次災害・グッズカードデザイン ザイコロ製作 松尾彰太
- 神戸の知恵カードデザイン 東根裕
- イラスト 松本拓実
- サイコロ製作 多田裕亮、渡部桂太郎、今井美佑
- SNS運営 松家雅大、松本拓実
- パワーポイント製作 渡部桂太郎



【交流事業】

日時 平成27年12月13日(日)10:00~12:00

場所 井吹東地域福祉センター(神戸市西区井吹台東町4丁目21?2)

対象者 いふきジュニアチーム(井吹台小学校区に在住する小学4年生から6年生による、地域の防犯、防災、福祉活動に意欲的に参加しているチーム)

内容 学生の開発した防災ゲーム体験





# 兵庫若者防災ネットワーク



## 新長田のステキ 再発見

兵庫若者防災ネットワーク  
遠藤正隆 福田諒 水野綾香

### 1. 長田に興味をもったわけ

#### ● 私たちだから気付ける神戸のよさ

私たちは、出身が愛知県や岡山県など大卒に進学するまで、もともと神戸とのつながりがありませんでした。そのため、新長田で生まれ育った人にとって「あたりまえ」で気づかない魅力や、私たちが「新長田」に発見できるのではないかと感じました。

#### ● 新長田は活気がないの？

震災後に人口流出が進み、商店街から活気がなくなっただけというわけの新長田。しかし、私たちが実際に訪ねたことで見えたのはとても魅力的なまちでした。新長田の方に、そしてとりわけ新長田に住む子供たちに、もっとまちに対する魅力を知ってもらいたい思いをもっています。私たちがその手助けができるのではないかと感じました。

### 2. 震災から21年。新長田の今は…

#### ● インタビュー

行った日 9月3日

お話しを伺った人 伊東さん

まちおこしには、地域の歴史や特色を理解することが大事。小学生に授業をする際に、気を付けるポイントを教えてください。

行った日 12月7日

お話しを伺った人 野村さん、伊東さん、パクさん

地域をよく知る年長者や、まちおこしに励む若者らの「コトバ」を集めるとともに、そこを見て・聞いて・感じた、私たちの「コトバ」も記録した。

#### ● まち歩き

行った日 9月3日

新長田の近くに下宿する水野さんの紹介のもと、震災後に整備された公園をめぐり、非常用の水源や即席のテントになる公園の設備を発見！

行った日 12月7日

野村勝さん、桑地英雄さんと一緒に、JR新長田駅の北側の地域をまわった。ジャッキやといった、災害時の三種の神器が入った倉庫の紹介や、被災直後のまちの写真と現在の姿を見比べた。被災当時のお話しを伺うとともに、私たちの気づきも共有した。

### 4. まとめと私たちのこれからの活動

- きれいなまち、おいしい食べ物、あたたかい人々。めっちゃいいところだった新長田！
- 遊合祭への参加など、私たち自身も仕掛け人として貢献したい！
- 来年は新長田の小学生自身に新長田の魅力を探して気づいてもらおう授業を行う！

### 3. まちづくりにかける思い

#### ● 野村勝さん 自分たちで作り上げたまち、守っていかないと！

野田・神楽まちづくり協議会 会長



区画整理を進める神戸市と、地域住民の意見を伝える交渉窓口としてつくられた「まちづくり協議会」。地主、家主、借家人みんなで力を合わせて市と交渉したことで、面結力が高まった。いまでは有志で防犯パトロールを行い、せせらぎの清掃を地域住民が主体となって清掃している。

➡ 地震があったから、「まちづくり協議会」が誕生した。今では地域の安全を促進し、コミュニケーションのきっかけに！

#### ● 伊東正和さん

大正協商店街振興組合 前理事長



まちを元気にするには、大手チェーンではなく、商店街にお金がおちる仕組みを作らなければいけない。商店街にお客さんを呼ぼうと、三國などのイベントを仕掛け、郷土料理だったぽっかけは全国に売り込んだ。

まちおこしの担い手を増やしたい。先の長くない老人には、もう一度まちおこしを頑張らうという気力を持つのは難しい。次代を担う若者を取り込みたい。

➡ 新名物・新名所をつくって新長田を売り込み！まちおこしに関わる若者が増えてほしい。

#### ● パク・ウォンさん 芸術と若者で、まちをもりあげる！

遊合芸能 チングドウル代表



多文化・多分野のアーティストによる遊合祭で文化水準を上げたい。ここ数年で人通りが増えてきた。ダンスボックスが設立され、若田のダンサーが新長田にダンス留学に来ている。絵画ローイングのためにも人が集まってきている。アートをきっかけにまちが再生してきている。新長田はどんどん元気になってきた。絵画ローイングの新長田を復興出来たら、東北復興のモデルケースになる。

➡ 音楽で大人も子供も巻き込み、文化水準の向上を！元気になってきた新長田を震災復興のモデルケースに！



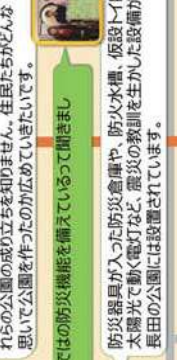


こんなにきれいな公園がたくさんあるんだらう？



千歳公園

震災後、住民が土地を出し合って、未来の子供たちのために思いを込めて公園を作りました。今では、たくさんの子供たちの笑顔があふれています。住民たちはこれらの公園の成り立ちを知りませんが、住民たちがどんな思いで公園を作ったのか広げてほしいです。



水笠通公園

震災直後から、地元住民力を合わせて町づくりに取り組んできました。現在では町づくりを通して築いた地域住民の絆や団結力を、町の防犯強化に生かしています。



なぜ歩道に防犯カメラがあるんだらう？



野村さん、伊東さん、私たち



なぜこんなにイベントがたくさんあるんだらう？



NPO法人KOBEPROJECT主催のイベントのポスター。商店街を盛り上げるために、様々なイベントを仕掛けています。イベントを通して、たくさんの人に新長田の魅力を知らせてもらいたいんです！

新長田に一度来れば、その魅力に私たちのようにはまっちゃいな！イベントの開催に、新長田でぜひめしやほっかけを食べ比べてみるのも楽しそ〜！

たくさんの方が商店街に来てくれる、お念が回って地域が活性化します！みなさんも、チェーン店で商品を買つのもいいですが、なるべく地元産にこだわって買いましょ！

活気がなくなってきたと聞いたけど、あれ？意外と活気があるなあ。



数年前に比べ、商店街が元気になってきたように感じます！商店街を盛り上げようと頑張る若者も増えてきています！

私たちは神戸に来るまでは活気のある商店街を見たことがありませんでした。新長田の商店街には、明るくて面白い商店主さんがいたり、いたるところに鉄人28号がいったり、他にないイイところな商店街です！

JR 新長田駅

スタート

ゴール

なぜ商店街に「鉄人28号」や「三國志」があふれているんだらう？

震災後、新長田にゆかりの深い横山光輝の作品（「鉄人28号」や「三國志」）でまちの復興を盛り上げようと、商店街が中心となって、オブジェを作ったり、イベントを開催したりしてきました。

特に、鉄人28号の巨大モニュメントは新長田復興のシンボルとして有名なだけでなく、鉄人28号というくらい鉄人28号が新長田の知名度をぐんと上げていってるね！



なぜ人工の「せせらぎ」があるの？



新長田地区では、震災が起こったときに火災により多くの人が亡くなりました。水があれば救える命もありました。その悔しさと追悼の気持ちも込めて町の中にせせらぎを作りました。この水は防火水槽に流れ込むようになっていきます。

このせせらぎはこみ落ちておどろいてもきれいなね！誰か掃除しているんだらう...

地域住民力を合わせて月に二回掃除をしています。若い人も参加してくれます。地域にとつて大事なこのせせらぎをこれからも住民みんなが守っていきたいです。

阪神高速3号神戸線

なぜ若者の姿が増えているの？



NPO法人DANCE BOX主催のダン、新長田アートダンス実行委員会主催のダンスワークショップ。主催の町下芸術祭のポスター

最近、新長田は若者が芸術の力で新長田を盛り上げようと頑張っています！ダンスボックスのダンス留学や、町下芸術祭など、芸術に精通する若者が外部から新長田に集まってきています！

そうか〜。新長田が芸術の拠点になっているんだね！新長田が第二の故郷だ！って思ってくれるよ。つな若者が増えたらアツクにな〜

本町筋商店街

遊合祭ってどんな祭りなの？



まちのクラレーション遊合祭実行委員会主催のイベントのポスター。多種多様なジャンルのアーティストが集まり、老若男女国籍問わず楽しめるお祭りです！

みんなでいっしょに遊んで心が合えばという意味を込めて「遊合祭」という名前をつけました！

新長田の人たちに、本物の音楽に触れてほしいです。そしてこのまちの文化水準を上げてほしいです！文化水準が上がれば、教育水準もあがるはず！

大正筋商店街



六間道商店街



お茶の味蔵



# 神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 船木ゼミ



## 災害メモリアルアクション KOBE の活動

メンバー：神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 2 年生（船木ゼミ所属）  
井関寛平・岡本大二・陸平智史・瀬戸純大・田中航平 谷口太直（絵）・辻本夕里・松本遼平・光井一成

私たちは、神戸市立明鏡小学校の長谷川元気先生（語り部 KOBE1995 所属：阪神・淡路大震災当時小学 2 年生で母親と弟を亡くす）のお話を学生が聞いて、お話と絵にして小学生に伝える活動を行いました。

### どうして長谷川先生のお話を小学生に？

ゼミでは、「防災教育」をテーマに命の大切さ、防災の必要性を伝える出前授業を行っています。2015 年 6 月に神戸市立蘆屋北小学校の 3 年生に非常持ち出し袋をテーマにした防災の出前授業を行いました。その時に小学生たちに、「阪神・淡路大震災」のあの時のことをイメージしてもらったの楽しさを感じました。



「どうしたら震災を知らない自分たちよりもさらに下の世代に伝えられるか？」  
そこで私たちは考えました。  
「子どもたちと同じ世代の震災の体験ならイメージしてもらいやすかもいい！」  
そこで、授業で話を聞いた長谷川元気先生のお話を聞きに行くことにしました。

長谷川元気先生が勤務されている明鏡小学校で数回お話を聞きました。



長谷川先生に会うまでに、新聞記事や先生の語りのお話の DVD を何度も何度も聞きました。話を聞いて、もっと聞きたかったことや、私たちがイメージしにくかった部分を質問しました。「弟と 2 人で公園に遊んでいたときはどんな服装でしたか？ どんな話をしていましたか？」

先生から聞いたことをお話と絵にして伝えることにしました。  
先生も覚えていないところは、みんなで考えました。  
絵にするときにはポーズをとりながら、その時の様子を想像しました。



授業では、やっぱり長谷川先生の「生の言葉」の力をかりたいと、先生の教室でお話を伺い、お話の解説として小学生に見てもらった DVD も作成しました。



蘆屋北小学校の 3 年生に授業を行いました。小学校の授業では・・・

- ① 紙芝居形式で私たちが作成したお話から、長谷川先生の被災体験を伝えました。  
その時、所々に「この時元気くんは何を思っていたのか」と考えてもらうポイント（3 か所）を加え、小学生には元気くんの立場になってもらうしつけを入れました。そして、その 3 か所を発表してもらった後には、長谷川先生の生の言葉をビデオで伝えました。



授業で私たちが伝えなかったのは、「周りの人の大切さを感じてほしい」ということです。先生はおっしゃってました。「突然大切な人がいなくなって後悔したと。だから、言える時に大切な人や周りにいる人に感謝の気持ちを伝えてほしい」と。  
私たちも、大切な人を亡くした体験や命の危険にさらされるようなけがをしたこともありました。その時に感じたことと重なって、「周りの人に支えられて生きていること」を長谷川先生のお話を聞いて改めて気づかされました。

- ② ワークシートを作成し、小学生に「自分の周りにどれだけ多くの人がいるか」を考えてもらいました。



- ③ 最後に、一番感謝を伝えたい人に向けて「ありがとうカード」のメッセージを書きました。



校長先生に、「朝会でいろいろお話をしてくれてありがとう」と書いた子もいました。"

小学生の感想には、「じしんは、いつおこるかかわからないので、わたしも、長谷川先生のように家族にできることをしたいです。ありがとうの手紙も、今日、わたしたいです。じしんにあいたくないです。大切な家ぞくをうしないたくないです。いもうとがいなくなったら、さびしいし、お母さんは、おいしいご飯を作ってくれます。お父さんは、会社に行ってくれるし、みんな大好きだからです」と書いてありました。



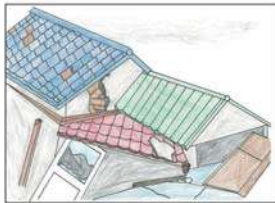
## 元気くんのゆめ

神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 船木ゼミ  
井関晃平・岡本大二・陰平将史・瀬戸絢大・田中航平  
谷口太宣(絵)・辻本汐里・松本涼平・光井一成



みなさんは、20年前におこった、『阪神・淡路大震災』という、地震を覚えていますか？このお話は、地震で家族をなくしながらも、強く夢を持って生きてきた男の子のほんとうのお話です。

兵庫県神戸市に、お父さん、お母さん、そして、3人の男の子の兄弟、の5人家族が住んでいました。3人きょうだいの名前は、小学校2年生の元気くん、1年生のようへいくん、2才になるしょうとくとくんと言いました。元気くんは、とてもめんどろみのいい1番上のお兄ちゃん、2番目のようへいくとくん、3人きょうだいのうち、一番上のお兄ちゃん、いつもわがままな子で、3人はよく公園に行って、サッカーをしてあそんでいました。元気くんは、ようへいくんはサッカーが大好きで、「大きくなったらサッカー選手になりたい」と言っていました。2人の練習にはいつもお兄ちゃんやとくんもついてきていて、ボールをおいけがしていました。練習が終わって家に帰ると、お母さんのおいしいご飯がいつもたくさん用意されていて、毎日のようにどろろのユニフォームを洗って、お父さんは、3人のニコニコした笑顔を見るのが大好きでした。お父さんは、ばんご飯を食べながら、お父さんが子どものころ、サッカークラブでがんばっていた様子をじまんに話していました。このように、家族はいつもにぎやかに、幸せな毎日を送っていました。



1月17日午前5時46分、大地震が家族をおそいました。「ドーン」という大きな音で元気くんは目をさました。すると、いつも部屋のかたすみにあるはずのタンスが、すぐ横にたおれていました。何が起きたのかわからないまま、まわりをみまわし、上を向くと、目の前には天井がタンスに支えられ、とまっていた。「なんかすごいことが起こった」と元気くんは感じました。

近くに自分1人が逃げそうなすきまがあり、そこか

らぬけだすことができました。外に出ると、いつもちがう高いけいがかがっていました。いつもあいさつしてくれるお兄ちゃんの家がつぶれていました。まわりをみても家族のすがたが見当たりません。元気くんは急に不安になりました。「お父さん、お母さん・・・」

その時、「だいたいどうですか？」というお父さんの声がありました。

「お母さんたちは？」 「今探してる」

すると、がれきの中から「たすけてー！」という声が聞こえてきました。

「ようへいだ！」

お父さんはがれきの中をあわててさがし始めました。

ようへいくんの足にはタンスがたおれていました。

お父さんはすぐにタンスを持ち上げて、ようへいくんをたすけました。

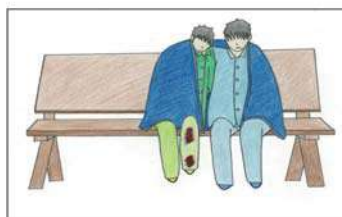
ようへいくんの足からは血がながれていました。

「ようへいだいじょうぶか？」 「うん平気。おかあさんとしょうとは？」

「まだ見つかってない」それから、お父さんと元気くん、ようへいくんの3人は、お母さんとしょうとくとくんを探しました。

「お母さん！しょうと！おかあさん！しょうと！」

返事はありません。元気くんは不安とあせりで、だんだん声が大きくなってきました。声がかるるまでさけびつづけていましたが、返事はありませんでした。



どれくらい時間がたってしまったでしょう。ようへいくんの足からは血が出ていました。お父さんはようへいくんの足を包帯で巻いたので、2人を安全な公園に連れていきました。そして元気くんとようへいくんをベンチに座らせ、お父さんはお母さんとしょうとくとくんを探しに行きました。元気くんとようへいくんは、不安な気持ちをかかえながらお父さんの帰りをまっています。

気がつけばあたりはまっくらになっていました。

しばらくするとお父さんがもどってきました。

お父さんは目に涙をうかべて「あかんかったわー」といいました。元気くんは、すぐににががったのかわかりました。

「もうお母さんにもしょうとにも会えないんだ」

いつのまにか元気くんも泣いていました。

ようへいくんも泣いていました。お父さんは2人をだき寄せました。3人はいつまでもなき続けました。



お父さんと元気くんとようへいくんの3人の生活が始まりました。お父さんは、お母さんのぶんち一生けんめいがんばりました。元気くんとようへいくんも、そんなお父さんのお手伝いをしました。お父さんのとくいな料理は、元気くんとようへいくんの大好きなカレーでした。

「元気、これ運んで」「うん、わかった！」

いつちご飯は3人そろって一緒に食べました。

ばんご飯のあとは、せんたくものをたたくのが元気くんとようへいくんの仕事です。ふたりでどちらが

きれいになるか競争することもありました。お父さんの仕事が休みの日曜日には、公園に行って3人でサッカーをしたり、雪がふった日には雪合戦をしました。おふろは銭湯に行き、背中を流し合い、お風呂上がりには牛乳をのみました。夜はさむいので、三人でよりよって寝ました。みんなと一緒にいることが何よりも安心できました。お父さんは家で塾の仕事をしていたので、たくさんの方が家に来て、さみしきを感じることはありませんでした。

ある日の夜、元気くんは夢をみました。人がたくさんいてにぎやかな公園で、家ぞく5人でサッカーをしている夢です。「お兄ちゃんいくよ」「こい、しょうと」「えい！」

「めっちゃ、ええボールやな」「得点がしやみや、母さん」「そうね！しょうとも元気とおなじサッカーせんしゅになれるかもね」

お母さんは楽しそうにこっちをみえています。元気くんは思いました。

(これが、ほんまの世界なんや。地震なんてなかったんや・・・)

楽しくサッカーをしていると、しょうとくんがボールが遠くに飛んでいきました。

元気くんがボールをとりにいってちどってきたら、お母さんがいません。

あたりが段々くらくなっていて、目をあけるといつもでんじょうが見えました。

とりにはお父さんとようへいくんがなっていました。お母さんもしょうとくんもいません。

「あれは夢だったんだ」

きがつくと目にはいっぱい涙がたまり、あふれ出していました。



大きな学校にいくとどんなに悲しいことかわずれることができました。

「今日のきゅうしょくなんやとおもっ？元気！」

「おはあげばいごうざがいない！」

「きなこばんだべたい！」

「きのうたべたやん」

こんなふつうの話も元気君には楽しい時間でした。

「きのうのあのテレビみた？」

「みたみた！おもしろかったよな」

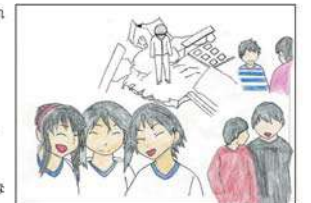
「おれはお母さんに電話しなさいっていわれてみえなかったんだ。」

友達とのたのしい話もお母さんといふことをきくと「ぼくにはもうお母さんがいないんだ・・・」とが

なしくなりました。

「みんなでサッカーしにいこうぜ！」

たのしそうにあそんでいる友達を見ていたら、もっとなしくなってきました。



元気くんはみんなの前で泣くのはせうたいいやでした。お母さんを思い出して悲しい気持ちになると、だれもないこうていの石だんについて、こっそり泣いていました。ぼくはひとりなんだ、そう思っていると、いつの間にかだんに先生の先生がよこすわっていました。そしてやさしく声をかけてくれました。

「元気ならきつとがんばれるよ。先生はいつもみてるからね。」先生のやさしい目を見てると、涙がすっとひいていきました。休み時間が終わるので、元気君は教室に戻りました。「元気、おまえがいなかったから、サッカーもたべたやん、次の時間は一緒にやろうぜ」

「そうやどこにいったんや」 元気くんは笑って答えました。

「おう、次の時間は一緒に行くわ」 みんなといると、元気くんは笑顔を取り戻しました。

「元気ならきつとがんばれるよ」

先生が元気くんの悲しい気持ちに気づいてかけてくれた言葉は何よりも、元気君をゆうき付けてくれました。その時、元気君には新しい夢ができました。「自分ちもまってるももたらによりよってあられる、先生のような人になりたい」と思いました。

そして、元気くんは神戸でいっしょ小学校の先生をしています。



【交流事業】

日時 平成27年12月7日(月) 8:50~10:25(3年1組:1・2時間目)  
10:50~12:25(3年2組:3・4時間目)

場所 神戸市立塩屋北小学校(神戸市垂水区塩屋北町4丁目10-1)

対象者 塩屋北小学校3年生(67名)

内容 震災当時小学生だった方の体験談を物語と絵にして伝えるワークショップ







Graduate School and Faculty of Safety Science

FSS

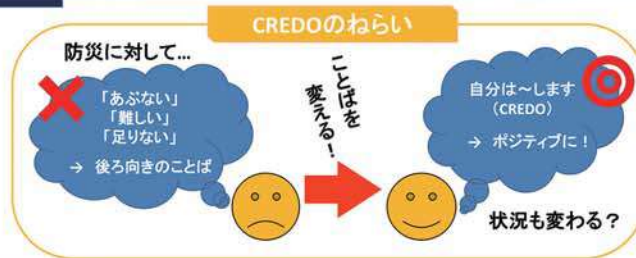
災害情報研究室(近藤ゼミ)  
kondo.s@kansai-u.ac.jp

## ぼうさいマイCREDOの取り組み

関西大学社会安全学部 尾崎杏奈・田島 篤

### CREDOとは？

CREDO(クレド)とは、ラテン語で、「約束・信条」。  
「ぼうさいマイCREDO」は、災害に関して、「自分は～します」というシンプルな宣言文のかたちで、ポジティブな思いを表明する(だけの)取り組みである。ことばの力で、ネガティブな状況をチェンジしたい…  
阪神・淡路大震災から21年を経た「KOBÉ」発の新たなアクション・リサーチとなることを目指している。



### 対象地域とことばの現状

真陽小学校区は、1995年(平成7年)、阪神・淡路大震災で住宅被害が大きい地域のひとつである。南海トラフ巨大地震では、まらのが崩れ浸水する想定!

兵庫県神戸市長田区の真陽小学校区

- 建物が新旧混在している
- 人口約6,650人
- 高齢化率は約30%超

**こどものことば**

Q) あなたは、「防災ぼうさい」・「災害はいがい」ということばを聞いて、どんなことをイメージしますか。思いつくことをなんでもよいので書いてください。文章や言葉だけでなく、絵でも、かまいません。

➤ ハザードの列挙... 56%  
「ひとが死ぬ」、「たいへんなことがおきる」、「家も壊れる」、「ぜんめつする」 etc.

➤ 後ろ向きではない言葉は、「ひなん」、「ひなんくんれん」、「防災ぶくろ」、「そして「高合」... etc.

神戸市長田区真陽小5年生、n=25 (2014.10実施)

ボランティア、絆、助け合いといったポジティブな言葉はゼロ!

**大人のことば**

前の家には、寝たきりの老人。隣りは、独居で80代。我が家には、車いすの母。もう、どうしようもない...

20年前は確かに助け合ったよ。でも、みんな歳をとったから、次の災害では無理、無理。

個別訪問による面談式ヒアリング調査(2015.8.1-2)

災害が来るまえに心が折れてしまっている  
「ネガティブ・スパイラル」

### 採取したCREDOの例

阪神・淡路大震災の頃に、たくさんのかたから助けられ、とてもうれしかったです。その感謝の気持ちを忘れずに、災害に備えていこうと思います。

小学校5年生のCREDO

お兄ちゃん目線の子供らしいCREDO

1. 17の事を思い出しながら語り合い

当時は水が足りなくて随分と困った。以来お風呂のお湯を残すようにしている。

スケッチブックだけでなく、様々なCREDOの表明のかたちがある。これは絵手紙サークルの方が描いた「絵手紙CREDO」である。発災直後、消火用の水を選ぶためにバケツリレーをおこなっていた等、当時の事を思い出しながら描いていただいた。

### CREDOの活用方法

多くのCREDOを月めくりの『カレンダー』に掲載することで、日々、励まし、励まされる関係性を強めていけるのではないかな。

新たな未来への動力源となる!

【チームCREDO】  
わたしたちも励まされました。これからも応援し続けていきます。



### 五田幼稚園教職員のCREDO



CREDO（ credo ）とは、地域の防災に際して前向きな思いを表明することです。

#### 1 January

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    |    |    |    | 1  |
|    |    |    |    |    |    | 2  |
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 |    |    |    |    |    |    |

真陽グループ ◎ 防災で強い団体が強い。防災を始めて、あふれる団子を確保する。  
◎ トラブル発生によるタイムインフレが広がる。すでに避難行動を開始！

### リヤカー部隊のみなさんのCREDO



CREDO（ credo ）とは、地域の防災に際して前向きな思いを表明することです。

#### 2 February

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
| 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 |    |    |    |    |    |

真陽グループ ◎ 防災で強い団体が強い。防災を始めて、あふれる団子を確保する。  
◎ トラブル発生によるタイムインフレが広がる。すでに避難行動を開始！

### 真陽小学校5年男子のCREDO



CREDO（ credo ）とは、地域の防災に際して前向きな思いを表明することです。

#### 5 May

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 |    |    |    |    |

真陽グループ ◎ 防災で強い団体が強い。防災を始めて、あふれる団子を確保する。  
◎ トラブル発生によるタイムインフレが広がる。すでに避難行動を開始！

### 婦人会のみなさんのCREDO



CREDO（ credo ）とは、地域の防災に際して前向きな思いを表明することです。

#### 6 June

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    | 1  | 2  | 3  | 4  |
| 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |    |    |

真陽グループ ◎ 防災で強い団体が強い。防災を始めて、あふれる団子を確保する。  
◎ トラブル発生によるタイムインフレが広がる。すでに避難行動を開始！

### 真陽小学校5年女子のCREDO



CREDO（ credo ）とは、地域の防災に際して前向きな思いを表明することです。

#### 3 March

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    | 1  | 2  | 3  | 4  |
|    |    |    | 5  | 6  | 7  | 8  |
| 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | 31 |    |    |    |    |    |

真陽グループ ◎ 防災で強い団体が強い。防災を始めて、あふれる団子を確保する。  
◎ トラブル発生によるタイムインフレが広がる。すでに避難行動を開始！

### 丸五市場のみなさんのCREDO



CREDO（ credo ）とは、地域の防災に際して前向きな思いを表明することです。

#### 4 April

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |

真陽グループ ◎ 防災で強い団体が強い。防災を始めて、あふれる団子を確保する。  
◎ トラブル発生によるタイムインフレが広がる。すでに避難行動を開始！

### 本町筋ビッグハート女子会のCREDO



CREDO（ credo ）とは、地域の防災に際して前向きな思いを表明することです。

#### 7 July

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    |    |    | 1  | 2  |
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 |    |    |    |    |    |    |

真陽グループ ◎ 防災で強い団体が強い。防災を始めて、あふれる団子を確保する。  
◎ トラブル発生によるタイムインフレが広がる。すでに避難行動を開始！

### 真陽子ども放送局のCREDO



CREDO（ credo ）とは、地域の防災に際して前向きな思いを表明することです。

#### 8 August

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    | 1  | 2  | 3  | 4  |
| 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |    |

真陽グループ ◎ 防災で強い団体が強い。防災を始めて、あふれる団子を確保する。  
◎ トラブル発生によるタイムインフレが広がる。すでに避難行動を開始！

### 民生委員児童委員協議会のCREDO



CREDO（ credo ）とは、地域の防災に際して前向きな思いを表明することです。

#### 9 September

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 |    |    |    |    |    |

真陽グループ ◎ 防災で強い団体が強い。防災を始めて、あふれる団子を確保する。  
◎ トラブル発生によるタイムインフレが広がる。すでに避難行動を開始！

### 長田神社氏子会のみなさんのCREDO



CREDO（ credo ）とは、地域の防災に際して前向きな思いを表明することです。

#### 10 October

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    |    |    |    | 1  |
|    |    |    |    |    |    | 2  |
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 |    |    |    |    |    |    |

真陽グループ ◎ 防災で強い団体が強い。防災を始めて、あふれる団子を確保する。  
◎ トラブル発生によるタイムインフレが広がる。すでに避難行動を開始！

### ひまわりクラス絵手紙サークルCREDO集



CREDO（ credo ）とは、地域の防災に際して前向きな思いを表明することです。

#### 11 November

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    | 1  | 2  | 3  | 4  |
|    |    |    | 5  | 6  | 7  | 8  |
| 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 |    |    |    |    |    |    |

真陽グループ ◎ 防災で強い団体が強い。防災を始めて、あふれる団子を確保する。  
◎ トラブル発生によるタイムインフレが広がる。すでに避難行動を開始！

### 真陽地区のみなさんのCREDO



CREDO（ credo ）とは、地域の防災に際して前向きな思いを表明することです。

#### 12 December

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    |    |    |    | 1  |
|    |    |    |    |    |    | 2  |
|    |    |    |    |    |    | 3  |
| 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

真陽グループ ◎ 防災で強い団体が強い。防災を始めて、あふれる団子を確保する。  
◎ トラブル発生によるタイムインフレが広がる。すでに避難行動を開始！





# スペシャルプレゼンテーション



## 「未」

\*NHK杯全国高校放送コンテスト出品作品

松蔭高等学校放送部

もうすぐ阪神・淡路大震災から21年になります。現在の高校生は震災に対する意識が低くなってきています。私たちは昨年、このイベント(災害メモリアルKOBE2015)で兵庫県立松蔭高等学校の諏訪清二先生が言われていた「未災害(みさいしゃ)」という言葉に出会いました。この言葉は「未だ被災していない」が、「これら被災するかもしれない」という意味を持ちます。

東日本大震災以降、日本各地で地震が多発しています。今こそ、阪神・淡路大震災の教訓を活かさなければいけません。そこで、私たち「未災者」には何が出来るのだろうかと思い、この番組を制作しました。



この番組の制作に関わってから、震災という言葉を意識するようになりました。私たち高校生は、「体験していないから関係無い」のではなく、「体験していないからこそ被災者の声に耳を傾けるべきだ」と感じました。

# パネルディスカッション



■**石原研究員** 学生の代表者と、震災30年を見据えた展望と、今年度のテーマである「神戸のコトバ」をどのように伝え、阪神・淡路大震災の記憶をどのように継承していくかということを考えていく機会にしていきたいと思っております。

登壇者は、矢守先生を除いて全員が10代、20代です。私たち、若手世代が、いろんな世代の方々に、いろいろ教えてもらいながら考えたいと思っています。

まず、参加した動機と参加してみた率直な感想を、おうかがいします。まずは、舞子高校の山本君から順番にお願いします。

■**山本さん** 昨年は震災20年で、多くの方々と話す機会がありました。その際、東北の方々などに、震災のことを何でもいから教えて欲しいと、何回も何回も言われました。震災のすごく基本的なことは勉強していますが、具体的に話ができませんでした。まだ、震災のことを知らないなと感じていて、そんなときに、災害メモリアルアクションKOBÉというものが、「知って伝える」ことがテーマだと聞いて、もっと知ることができる機会が来たんだなと思って、参加を決意しました。

■**渡部さん** 私たちは、1年生のときに、防災リテラシーという授業を学び、その後、防災士資格を取得しました。しかし、防災士資格をせっかく持っていますが、活動しなかったら、何の意味もないと考え、私は明石高専の防災士有志を集めて、明石高専防災団を結成することを決意しました。

結成に向けて準備をしている最中、この災害メモリアルアクションKOBÉの話聞き、これから、明石高専防災団が活動していく場として最適なものだと考え、参加を決意しました。

■**水野さん** この兵庫若者防災ネットワークは、昨年3月に仙

台で行われた国連世界防災会議で、兵庫の若者の声を届けるために、神戸市内にある大学から代表が出て来て、結成しました。専門分野も防災というわけでもなく、いろんな学部から構成されています。

国連世界防災会議で、私たちは、兵庫からの声として、被災された方が、自分の経験や教訓を伝えてもらうものだけでは途絶えてしまうので、若者が次世代の子供たちと被災された方のかけ橋になって、どんどん語り継いでいこうという「新しい語り継ぎ」を、世界の若者の前で提案させていただきました。その数カ月後に、このお話をいただいて、これを提案したものを、実際にアクションに興ず、よい機会だと思い、参加することに決めました。

■**松本さん** 私の所属している船木ゼミでは、防災教育をテーマにゼミを行っていて、前期にも一度、このイベントとは別に塩谷北小学校に授業に行っていたこともあり、後期にもう一度行って、何かしたいなという話をしているとき、このプロジェクトのお話をいただきました。以前、小学校に行っている分、2回目はもっと、近い距離での防災教育というのが可能であるのではないかという思いを持って、今回、このプロジェクトに参加しました。

■**尾崎さん** 中間発表の時から参加したのですが、年齢の近い者それぞれ別の角度から震災へのアプローチがあって、すごくおもしろいなと、率直な感想を持っていました。

先ほど発表したCREDOは、中間発表時は、半分ほどの数が集まっていて、今後の活動を考えるに当たって、他の班の活動を聞けたことは、すばらしい機会でしたし、すごくいい刺激にもなりました。

この活動も、若い人たちが主体で頑張っていくことが、この神戸の街の発展を考える上でもすごく重要なことだと思



【登壇者】

兵庫県立舞子高校  
国立明石工業高等専門学校防災団  
兵庫若者防災ネットワーク  
神戸学院大学現代社会学部社会防災学科船木ゼミ  
関西大学社会安全学部近藤研究室

山本 泰成さん  
渡部 桂太朗さん  
水野 綾香さん  
松本 涼平さん  
尾崎 杏奈さん

前災害メモリアルKOBEBE実行委員会幹事長  
京都大学防災研究所教授  
人と防災未来センター上級研究員  
矢守 克也さん  
【コーディネーター】  
人と防災未来センター研究員  
石原 凌河

いますし、また、人生の先輩の方々からのお話も、ときには厳しい意見もいただきましたが、そういう意見も踏まえて、どんどん、今後、若い人たちが頑張っていけたらなと思います。

■石原研究員 皆さんの参加した動機を聞いて、前向きに取り組もうという意志を強く感じました。続きまして、今年度は「神戸のコトバ」というテーマで進めてきましたが、活動の中でいろんな神戸のコトバが発見されたと思います。その中で、印象的だった神戸のコトバ、あるいは、この神戸のコトバをぜひ伝えたいなものがあれば、教えてください。

■山本さん 僕たちのチームでは、阪神・淡路大震災を経験した人たちにヒアリングを行いました。そのヒアリングの中で、震災を実際に経験された方々にお話を聞かせていただいたのですが、実際に経験していても、もう20年経った今では、備えもしてないとか、避難場所も、みんなが集まる場所も決めてないとかというような人がたくさんいらっしゃいました。そういった結果の中で、やはり、当事者意識というものが、どんどん低くなっていっていることが、僕の中では、とても驚いていて、やはり、そのコトバが今回の活動の中では、一番、印象的だったなと思っています。

■渡部さん ゲーム制作に当たり、一番、印象に残った神戸のコトバというのは、人と防災未来センターの語り部さんである荒井さんの言葉です。これは、ゲームにも「神戸の知恵カード」として反映させていただきました。震災時は、準備していた防災グッズなどが、必ずしも使える状況ではないということ。そして、身の回りにある、今、持っているものだけで、さまざまな問題を解消しなければならないという機会が訪れるという「コトバ」です。荒井さんの神戸の知恵カードだけでなく、例えば、ある方の神戸の知恵カードでは、布を取りあげました。ちょっと布団サイズのものでは、枕にもなりますし、何かものを包むこともできるという知恵がありました。そういう防災グッズ、日頃、そういう使い方をしてないものでも、こういう使い方でもできるよというアイデアというものの重要性やその発想力の重要性を、これから伝えていきたいと思いました。

■水野さん 震災を経験していない人と経験した人がふれあうことがいかに大切かということを私は学びました。確かに、

本や映像で、震災のことを勉強することはできるけれども、やはり、顔と顔を合わせないとわからないことっていっぱいあると思っていて、実際に、野村さんにお話を聞いたときも、野村さんの街にけるすごく熱い思いや、生き様を肌で感じて、私自身、すごく胸が熱くなりました。そういう思いがあれば、私が次世代の子供たちに、例えば、野村さんの話を伝えるときも、野村さんの顔が浮かんで、気持ちを込めて伝えることができると思うので、さらに、私たちのような世代が、交流することで、新しい発見もあると思います。そういう意味も込めて、今しかないと言うか、今できることなので、本当に、積極的に、お話を聞いたり、交流したりしていきたいと思っています。

■松本さん 本当に、震災というものはいつ起こるかわからない。本当に、突然、起きて、その次の日には、次の瞬間には、自分の周りにいる人というのは、命を落としてしまったり、いなくなってしまうというの、本当にあると思います。長谷川先生に取材させていただいて、先生自身がそういう御経験をされたお話を聞いて、僕たちは、防災教育において、どういったテーマで、取り組もうかというので、子供たち、周りの人の大切さというのを一番、届けたいと思い、紙芝居も用いて、長谷川先生の体験を、子供たちに聞いていただき、子供たちに先生の思いを考えて、先生の気持ちになって考えてもらうという時間をつくるような授業をしました。

本当に、子供たちから授業後にももらった感想シートという中には、周りの人を大切にしたい、家族を大切にしたいとか、特に、お父さん、お母さん、近所のおばちゃん、すごくお世話になっている人を大切にしたいとかいう返事がありました。僕たちが今回、一番伝えたかったのは、神戸のコトバとして、周りの人の大切さを、本当に、突然、いなくなってしまうかもしれない、そんな人たちに、いっぱい、感謝を伝えることを、すごく大事に思っほしいなという意味で、今回は、周りの人の大切さというメッセージを伝えたいなと思いました。

■尾崎さん 新長田に訪れて、そのたびに、新しい人、初めて会う人といろいろ会話を交わしていく中で、たくさんの方から、たくさんのお言葉をいただきました。どれも本当に選べないぐらい、印象深く、一つ一つ、その方の思いがこもったメッセージをたくさんいただいたんです。その中でも「感謝を忘





れないでいます」というメッセージがとても、一番、印象深かったなと思います。

阪神・淡路大震災のことを忘れてはいけないというのはよくわかります。その被害の大きさだとか、どちらかという、ネガティブなイメージももちろん、伝えていかないといけないですけども、その中でポジティブなことというの、同時に伝えていかないといけないかなとも思います。その言葉を聞いて、本当に考えさせられました。

その感謝の意を述べていた方は、その方だけではなく、多くの方から、そうした言葉をいただいて、震災により、人のつながりというか、絆というものが強まったと思います。そういうものも、必要なものだと思います。

■石原研究員 皆さんの、神戸のコトバというのは、ネガティブなコトバというよりも、どちらかと言うと、前向きなコトバを発信していかなければと思いました。

ここで、矢守先生の方からは、10年前に始まった災害メモリアルKOBEの経緯と、10年間の活動の流れについて、教えていただけたらと思います。

■矢守先生 今日は、明るい未来のある若手世代の方々のスタートアップの会に、お呼びいただいて、本当にありがとうございます。

最初のメモリアルの10年であるファースト・ディケイドを引き継ぐ形で、次の2番目の10年間の事務局を担当させていただいて、去年、その11年目から20年目までのまとめが、一応、完了しました。そこで、特に中心になってこの事業を進めたメンバーで、自分たち10年間、何をやってきたんだろうと考えてみました。

その心を一言で言うと、お配りした資料の表紙のところにある「震災を伝える、を考える」という言葉は、そのままパソコンで変換すると、文法が間違っているかもしれませんが、でも、やったことは、本当にこういうことだと思えます。私たちがイベントを始めたときは、「その10年前の出来事をどのように伝えるのかということを考える」という10年間を送ってきました。

また、副題にある、「インフォメーションからコミュニケーションへ」という言葉は10年間、いろんな方に、いろんな形で、お話をいただいたり、歌を歌っていただいたり、絵を描い



ていただいたり、いろんなことを経験させていただいて、たどり着いた結論の一つを、私なりに表現した文なのです。

今日も、いくつかの発表で、長田区が舞台になっていたんですけども、同地域は、当時大きな火災が発生しました。その火災について伝える。あるいは、伝えられた火災について、私たちが知るというのは、どういうことなんだろう。そのときに、インフォメーションとして知るということと、コミュニケーションとしてそれを知るということとは、別のことじゃないかという趣旨のことが書いてあります。

インフォメーションとしての火災というのは、多分、一つに決めなきゃいけないので、消防無線の中で交わされる火災についての情報というのは、誰が聞いても、どこで聞いても、どんな形のメディアで伝わってきても、同じものにならないといけないんですね。インフォメーションとして、21年前の出来事を知ることも大事だと思うんですけども、そういう知らない知り方、伝え方もあるだろうと。

この11年目から20年目のイベントで、この火災を消そうと思って、四苦八苦しておられた消防士の話もお聞きしましたし、その消防士であったお父さんが、家から出て行ってしまったのを、さみしいなと思いながら見送った、当時7歳の女性の話も、聞きました。それから、この大きな火災に襲われた長田区の人たちを励まそうと、FM放送を立ち上げて頑張った方の話も聞きましたし、いろんな形で、この長田の火災というのは、コミュニケーションされうると。そういういろんな形というのを工夫しましたというのが、11年目から20年目ということですね。

■石原研究員 神戸のコトバを、次の10年、いわば、震災から30年を迎えるにあたって、どのように伝えていけばいいか、お伺いしたいと思います。

■山本さん 僕たちのチームでは、次の世代を、次の災害を経験するであろう人たちという位置づけで活動しています。その次の災害を経験するであろう人たちというのは、阪神・淡路大震災を経験した人たちも含めています。そういう面から言うと、僕たちが行ったヒアリングというのは、とてもいいものなのかなと思っていて、ヒアリングをすることで、そのヒアリングを受けた人たちは、震災のことを思い出し、また備えをしないといけない、次の災害が来るかもしれない



なと思ってもらえます。

そのヒアリングをした人たち、また、その聞いたことを、ほかの人たちに、口頭でもいいし、文章でもいいし、いろんな方法で伝えていきます。そういう、連鎖みたいなものが、できあがれば、すごくいいのかなと思ってます。

**■渡部さん** 今回は、防災ゲームという形で、神戸のコトバを伝えていくことを目指しました。そして、防災ゲームというのは、結構、有用性がありまして、地域で開催されている防災イベントなどに、ゲームだけを持っていくことにより、防災教育が可能になります。それは、明石高専の近くの地域でも、行いたいと思っていますし、また、まったく別の神戸とはかけ離れた場所でも、やっていけたらいいと思っています。

今回、トライアル等で、子供たちに遊んでいただきましたが、子供たちからお年寄りまで、幅広い世代の方に、遊んでいただけるゲームにしていきたいと思っています。ただ、D-PROは、防災ゲームをつくるだけの組織ではありませんので、これから、災害メモリアルアクションの活動をしていくにあたって、防災ゲーム以外のこともやっていきたいと考えています。

少し、話が変わりますが、よくある防災教育という形は、ネガティブな教材、例えば、震災が怖いよという、そういう形の教材があり、それで、災害の怖さ等を学んでいるというものが多いです。しかし、私たちがつくった防災ゲームは、どちらかと言うと、楽しみながら防災を学べます。少し、不謹慎になってしまうかもしれませんが、楽しい感情を持ったまま、そうやって、防災についての知識を入れていくという形になります。そのようなものを、防災ゲーム以外にも、これからつくっていったらいいと思います。

**■水野さん** 今後10年を見据えるということももちろん、大切だと思うんですけど、今年がなければ来年もないし、来年がなければ再来年もないので、私は、まず、来年何をしたらいいかを考えたいと思います。

プレゼンでも発表しましたが、地図づくりを、子供たちと一緒にやりたいと思います。子供たちと一緒に、新長田の街を再発見したいと思っています。それには、子供たちを、どのように引きつけるのが大事だと思っています。「お姉

ちゃんたち、全然、新長田のこと知らないんだよね。だから、みんなの知っている新長田を、みんなしか知らないところを教えてください。」って聞いてみたりして、大人にもわからない、私たちにもわからない、子供目線の子供にしかわからない、新長田の魅力というのを、一緒に再発見したいと思います。私たちもちろん、学びたいと思っていますし、そうやって、お互いに学び合っていけたらいいかなと思っています。

**■松本さん** 私たちのつくった教材は、中間報告の際に、このプロジェクトを運営されてる方から、全国規模にしてほしいという話をいただいていて、ゼミでつくっていく途中では、まだ、足下がふらついている感じだったんですけど、一つ、形ができた状態になってからは、これから広めていくために、もう少し、過去を掘り起こして、全国に広げていきたいというのが、制作者としての気持ちです。

周りの人の大切さというのは、防災においてだけじゃないと思うんですよ。日頃、家族に感謝する気持ちというのは、本当に大事だと思います。この教材を使っただけであれば、例えば、防災にちょっと堅いイメージを持っている人たちにも、親しみやすく、この教材により入っていただけます。かつ、全国規模にしていくためにも、そういった親しみやすい教材というのは、いいんじゃないかと僕は思っています。

**■尾崎さん** 今つくっているカレンダーでも、また、来年、仮に新しいものをつくるとしたら、また、新しいコトバが集まって、そこには自分の子供が写るとか、自分の友達、知人が写っている。カレンダーは、多分、残してくれる思うんです。また、何年か後に、アルバムのように見返したときに、懐かしいなと思い返すと、そのときに、自分の言葉というのが写っているので、また今では自分の言葉も変わっているよねというふうな、そのとき、そのときに、新しい言葉を考えていけたらいいと思います。

次世代の子供たちに残すためにも、形のあるものの方がわかりやすいと思いますし、それをまた、教えるということも大事だと思うので、こういう活動をしていく上でも、いろんな人とお会いして、お話しして、自分の知識も蓄えていって、それをまた、違う人たちも伝えていくことが、今後、10年、20年と、大事になると思います。





**■石原研究員** この、災害メモリアルアクションKOBEMも次の10年を見据えた活動とはなっているんですけど、まずは次の1年、そして2年と、試行錯誤を繰り返しながら、結果的には、10年目を迎えるのかなと感じました。

これまでの災害メモリアルKOBEMも、試行錯誤を繰り返しながら、10年が続いたと思いますが矢守先生から、この災害メモリアルアクションKOBEMに対して期待をすることを、お話しただけならと思います。

**■矢守先生** セカンド・ディケイドですね。2番目の10年間の11年目から20年目も、特に1年目、2年目は試行錯誤で、どのようなアプローチが重要で、あるいは大切なのかなということが、あまり見定めずに活動していたので、多分、この新しいメモリアルアクションもそうかなと思うんです。ただ、今年、「神戸のコトバ」というすばらしいキーワードを見つけれたんじゃないかなと思いました。

「言葉」という言葉の語源ですけど。言葉の「葉」という字は、葉っぱという字を書くじゃないですか。昔、どういう字を書いていたかと言うと、道端とか、炉端焼きというときの、端っこという字がありますよね。あっちを書いていたんですね。「こと」というのは、「言」という字ではなくて、「事柄」の「事」です。つまり、「事端」(ことば)というの、起こった出来事の、ほんの端っことか、自分のトータルな気持ちのうちの、ほんの一握りという意味が元々らしいです。

じゃあ、コトバには力がないのかと言うと、そんなことないということが言いたくて、この話をしているんです。小さなコトバが、大きな全体を、私たちに感じさせてくれるということも、幾らでもあると思うんです。

きょう、いろいろお聞きしたコトバの中にも、たくさんあったんですよ。確か、長谷川さんの話をつくる紙芝居のプロセスの中で、長谷川さんが「お母さん」というコトバを聞いて、とても悲しくなるというお話があったと思うんです。コトバとしては、ほんの一言。「お母さん」というコトバだったり、当時、悲しくなったという、それだけのコトバだったんですけど、多分、そのコトバの端っこに、当時、長谷川さんが持っていた気持ちとか、そういうものの全体を、僕らはコトバの端っこから、想像できる。私たちは力を持っていると思うんです。その力がとっても大事で、どれだけ伝える側が、発信できるか



ということが、大事なんじゃないかなと思ったりしました。

ほかにも、牧先生といいね、と言っていたのは、「弟の面倒をみたる」とか。あれも、とっても小さな小さなコトバですけど、小学生の男の子が、そのコトバに込めた気持ちの全体みたいなものを、やっぱり、僕らは感じ取れますよね。そういったことが、これからこの神戸のコトバを一つの手がかりに、21年目を展望しようとしている皆さんにとっては、大事なんじゃないかなと思いました。

**■石原研究員** ありがとうございます。残りの時間は、諸先輩方に、いろいろ教えていただきたいと思います。まずは、河田センター長から、この災害メモリアルアクションKOBEMに期待することを、お話しただけないでしょうか。

**■河田センター長** 21年前に、メモリアル・カンファレンス・イン神戸の第1回を開催したときには、このような形で21年後に展開しているというのは想像もできなかったです。あのとき考えたのは、災害というのは、一部の人のだけに関係することじゃなくて、そこにいる人たち全体に関係するから、この問題は、みんなでやらなきゃいけないというなんですね。そのときに、若者っていうのは、頭の中になかったんですよ。なぜかと言うと、あまりにも犠牲が大きかったから、これをどうするんだということが、先行したわけですね。

20年以上経って、被災地が落ち着いて、きょうの切り口だったコトバというのが、それがやっぱり非常に大きいよという形になってきていると思うんです。

ただ、考えなきゃいけないのは、いきなり「インフォメーションからコミュニケーション」じゃなくて、インフォメーションをインテリジェンスにしなきゃいけない。これは、難しいんだけど、例えば、瀬戸内海には、南海トラフでどんな大きな地震が起こっても、5m以上の津波は入って来ません。逆に、海峡の外側は、とても被害が大きく、和歌山とか徳島とかを助けてやらなきゃいけない。そういう知識がなかったら、多分、助けに行くという考えが出てこない。

だから、連帯感というのは、自分たちだけのことじゃなくて、外のことをどう知るかという理解というのが、とても大事なので、ぜひ、これからの10年、神戸のコトバの中に、インテリジェンスをどう入れていくかということも考えてほしい。

例えば、人と防災未来センターの建物は震度7でも、全



然、ぴくともしないんですよ。それから、南海トラフ、9.1のマグニチュード起こっても、標高が高いからここは浸水しない。ここに住んでいる人は逃げなくていい。だけど、それを知らなかったら、先ほどの話のように、国道2号線より山側へ逃げなきゃいけないってなっちゃうんだよね。つまり、知識というのは、命を助けてくれる。そのことも、コミュニケーションの中で、ぜひ、やってほしいと思います。

**■石原研究員** ありがとうございます。神戸のことを大切にしながらも、ほかの被災地の状況や、防災・減災に関する普遍的な知識と合わせて、神戸の言葉というのを、次の10年に向けて皆さんと一緒に考えていく必要性を強く実感しました。

最後、学生の皆さんで、諸先輩方に質問はありますか？

**■水野さん** 今回の発表、全体を通してポジティブな面がすごく強調されていたと思うんですけど、震災を経験された方々は、震災をポジティブなコトバで語っているのを、どう思われますか。

**■石原研究員** 阪神・淡路大震災の研究に長くかかわってこられた室崎先生からアドバイスをいただけたらと思います。

**■室崎さん** 震災で被害を受けた人は、基本的には、震災のことを語りたくないとか、伝えたくないという気持ちが強いんですね。助け合ってよかったねっていうことは、幾らでもしゃべれるんだけど。そこに、あなた方のような、若い人が行って話をすると、クローズしていたものが、ちょっと開ける。暗い気持ちの中で、明るい光が射し込むように。あなた方の若い力で、被災者の気持ちが引き出されていっている。そこで、非常に積極的になっていって、ネガティブがポジティブへの変化が起きてきている。むしろ、あなた方がポジティブなことを語ることで、ポジティブな姿勢を引き出しているということで、とてもすばらしいと思います。

さらに補足すると、あなた方は、震災を体験していないし、



震災を知らないから、それがとってもメリットだと思うんです。想像力もあるし、知りたいという好奇心もある。そういうものが、多分、この被災者の方の中にあるいろんな気持ちを、うまく交通整理しながら、引き出すのだと思います。今日とてもすばらしい報告をたくさん、聞かせていただきました。私も70代なんですけど、勇気をもらいました。

**■石原研究員** 阪神・淡路大震災から21年目の今年、初めての取組みとして、試行錯誤しながらではありましたが、無事に5団体の発表ができたと思います。

牧先生が、冒頭の挨拶の方で話された「翻訳」という言葉が、重要なキーになるのかなと思います。阪神・淡路大震災を知らない世代が、「翻訳」作業を通して、神戸のコトバをいろいろ探し、それを伝える。その行為は、震災の記憶を伝えることにもなり、私たちの世代が、防災、減災の担い手になるということ、強く実感しました。

もうひとつポイントとなることは、試行錯誤だと思います。来年度以降も、引き続き試行錯誤しながら、いろんな先生や、他の地域と連携し、皆さんと一緒に考え抜いていくことこそ、震災の記憶を継承する作業の一手になるのかなと思います。



# 閉会のあいさつ



河田センター長

新しい切り口で、21年目のこの集会ができ、とてもうれしく思っています。私は、もうすぐ70歳になるのですが、阪神・淡路大震災が発生した時には、48歳でした。私の3分の1ぐらいしか生きていない若者が震災のことを語ってくれることは、とても幸せなことだと思います。

ただ、こういうイベントを、何のためにやっているかと言うと、残念ながら、また震災が起こるからなのです。阪神・淡路大震災は、誰も、そんなことが起こると思ってなかったときに起こりました。それが、一番の不幸だと思うのです。そういう意味で、今日、様々な試みを発表していただいた人たちは、確実に、将来において被災するかもしれない世代です。だからこそ、その備えのためにやっているんだと考えていただきたいと思います。

そして、次の世代にどのようにつなげていくかというのは、この阪神・淡路大震災を経験した私たちの世代の大きな責任です。21年前は、今回の企画委員長の牧先生も非常に若くて、非常に元気でした。矢守先生も元気でした。仕方なくどんどん歳をとっていくと、だんだん、元気がなくなるのですが、一方、知恵だけがどんどんついていくのです。その知恵を使わない手はありません。

将来、確実に起こる南海トラフ巨大地震や首都直下をどう迎えるかというのは、一人一人の大きな問題になっています。私は日常防災と言っているのですが、普通の生活の中で、震災というものを忘れてはいけないという、習慣が根付けば、確実に、将来起こる災害を迎えることができると思うのです。今回の学生さん達が経験した、試みを、みんなが好きになるような形でやっていただくというのが、一番、継続する大きな条件ではないかと思っています。

今回、コトバの重みが非常に大事だということが、再認識されたと思うので、これからの10年、このコトバというものを、キーワードに、この震災をどう後世に伝える、備えることにつないでいただけるか、期待しています。



集める・伝える・活かす

災害メモリアルアクションKOBÉ

# ACTION 2016

テーマ：

## 神戸のコトバ

参加無料

### 活動報告会

日時

2016.1.9 [SAT]  
10:00 → 12:30

会場

阪神・淡路大震災記念

## 人と防災未来センター

これまで、「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸（1996～2005年）」、そして、その教訓を次世代に伝えるために「災害メモリアルKOBÉ（2006～2015年）」を実施してきました。

そして、2015年度からこの先の10年を見据え、「災害メモリアルアクションKOBÉ」という取組みを開始しました。

参加学生の防災・減災活動を通じて、災害教訓を「活かす」ことができる人材を育成するとともに、防災の取組みをいろいろな地域・世代へ広げていく事例をまとめ、今後の被害を減らすことに寄与することを目指します。

主催：人と防災未来センター、京都大学防災研究所自然災害研究協議会  
企画：災害メモリアルアクションKOBÉ企画委員会  
後援：兵庫県教育委員会/神戸市/神戸市教育委員会/朝日新聞社/読売新聞神戸総局/毎日新聞神戸支局/産経新聞神戸総局/神戸新聞社/NHK神戸放送局/ラジオ関西/神戸学院大学/明石工業高等専門学校/関西大学社会安全学部

### プログラム

司会：松蔭高等学校 放送部

10:00

#### 開会・挨拶

災害メモリアルアクションKOBÉ 企画委員会委員長  
人と防災未来センター 震災資料研究主幹  
京都大学防災研究所教授 牧 紀男

10:10

#### 活動発表

発表：兵庫県立舞子高校  
国立明石工業高等専門学校 防災団  
兵庫若者防災ネットワーク  
神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 松木ゼミ  
関西大学 社会安全学部 近藤研究室

11:25

#### スペシャルプレゼンテーション TVドキュメント「未」

NHK杯全国高校放送コンテスト出品作品  
制作：松蔭高等学校放送部

11:35

#### パネルディスカッション 「神戸のコトバ」

この活動に参加した動機や、10年後に向けて「神戸のコトバ」を伝えるため、どのように行動すべきが意見交換します  
コーディネーター：人と防災未来センター 研究員 石原 凌河  
登壇者：各グループ参加学生代表者  
前災害メモリアルKOBÉ実行委員会幹事長  
京都大学防災研究所教授 矢守 克也

12:25

#### 閉会・挨拶（講評）

災害メモリアルアクションKOBÉ 企画委員会顧問  
人と防災未来センター長 河田 恵昭

※敬称略



災害メモリアルアクションKOBÉ  
**ACTION 2016**

**兵庫県立舞子高校**



私たちは、阪神・淡路大震災についてもっと知りたいと思い集まったチームです。次の災害でその人にとって最良の判断ができるように、またその選択肢を増やすために神戸のコトバを伝えようと活動しています。最良の判断とは、災害で死なないことではなく後にその人が後悔をしないことだと考えました。津波の被害が今、注目されていますが津波がくる前に地震が来ます。その地震を中心に考え、阪神・淡路大震災が起こった瞬間の判断、行動を次の世代に伝えたいと思います。

**兵庫若者防災ネットワーク**



**新長田のステキ“再発見”**

阪神・淡路大震災から21年を経た新長田。新長田にゆかりのない若者が訪れ、目にした新長田はとても魅力的なまちへと復興していました。そこに住む人にとって「あたりまえ」であるから気づかない、新長田の魅力。私たちはその“再発見”を試みます。地域をよく知る年長者や、まちおこしに励む若者らの「コトバ」を集めるとともに、そこを見て・聞いて・感じた、私たちの「コトバ」も記録します。活動を通じて見えてくる新たな新長田をお伝えします。

**関西大学 社会安全学部 近藤研究室**



**「ぼうさいマイCREDO」カレンダーの制作**

防災の分野は、「あぶない」、「足りない」、「難しい」といった、後ろ向きなことばのオンパレードです。これではちょっと息苦しい。そこで、関西大学近藤ゼミでは、神戸市長田区真岡地区に通い詰めて、ポジティブなことばは、「ぼうさいマイCREDO」（クレドは、ラテン語で約束という意味）を集めました。そして、希望を紡ぐことばに満ちたカレンダーに仕上げました。1年を通して地域の思いを支えていきます。

今年のテーマ：

**神戸のコトバ**

初年度となる今年度は、「神戸のコトバ」をテーマに、グループ単位で参加を希望した学生が阪神・淡路大震災で被災した地域などに入り、インタビュー、アンケート、交流事業などを企画・活動しました。今後の防災に「活かす」事例として、報告するとともに、今後の活動について考えます。

**国立明石工業高等専門学校 防災団**



D-PRO135<sup>®</sup>(明石高専防災団)は、明石高専で防災士を取得した学生による防災活動組織です。今回は、防災ゲームの製作を行いました。ゲームを通して、プレイヤーに楽しみながら防災意識を高めてもらうことを目指します。製作にあたり、既存ゲームの調査、被災経験者のヒアリング、情報収集を行ってきました。毎回違うパターンで遊べるよう、4枚のボードの組合せ、時間帯や役割といった条件を設定し、ゴール(避難所)を目指す、チーム制のボードゲームです。ぜひ、ゲームに挑戦してみてください!

**神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 松木ゼミ**



神戸市立明親小学校の長谷川元気先生(震災当時小2、母親と弟を亡くす。)の震災経験を基に紙芝居を作成。長谷川先生に聞き取り調査を数回行い、聞いた内容を何度も振り返り、話し合い、記憶にない部分は想像で補いました。その紙芝居を使って、塩屋北小学校3年生に向けてワークショップを実施。話の途中で「元気くんの気持ち」などを考える授業内容として、子どもたちにできるだけ元気くんの立場になって考えてもらう工夫をしたストーリーを構成しました。

主催：人と防災未来センター、京都大学防災研究所自然災害研究協議会  
企画：災害メモリアルアクションKOBÉ企画委員会

お問い合わせ：

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター事業部普及課  
〒651-0073 神戸市中央区臨海海岸1丁目5-2 西館6階  
Tel：078-262-5060  
Fax：078-262-5082  
Email：hitobou-fukyuu@dr.ne.jp  
HP：http://www.dr.ne.jp/memorial\_action\_kobe



# 災害メモリアルアクションKOBÉ企画委員会名簿

## 【企画委員】

※委員は氏名五十音順

| 役 職   | 氏 名      | 所 属                       |
|-------|----------|---------------------------|
| 企画委員長 | 牧 紀男     | 京都大学防災研究所                 |
| 委 員   | 伊藤亜都子    | 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科        |
|       | 卜部 兼慎    | NPO法人防災デザイン研究会            |
|       | 奥村与志弘    | 京都大学地球環境学堂地震災害リスク論分野工学研究科 |
|       | 甲斐聡一郎    | 兵庫県災害医療センター               |
|       | 河田のどか    | (特非)さくらネット                |
|       | 近藤 誠司    | 関西大学社会安全学部                |
|       | 高森 順子    | 大阪大学大学院、阪神大震災を記録し続ける会     |
|       | 出村 沙代    | 国立明石工業高等専門学校              |
|       | 中野 元太    | 京都大学地球環境学社                |
|       | 西口 正史    | ラジオ関西報道制作部 記者             |
|       | 福岡 龍史    | エフエム・プランニング               |
|       | 宮本 匠     | 兵庫県立大学防災教育研究センター          |
|       | 安富 信     | 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科        |
|       | 横山 愛子    | 株式会社GK京都                  |
| 和田 茂  | 兵庫県立舞子高校 |                           |

## 【サポーター】

|  |       |                     |
|--|-------|---------------------|
|  | 太田 敏一 | 国立明石工業高等専門学校        |
|  | 越山 健治 | 関西大学社会安全学部          |
|  | 諏訪 清二 | 兵庫県立松陽高校            |
|  | 佐藤 敬  | 国土交通省近畿地方整備局神戸港湾事務所 |
|  | 馬場美智子 | 兵庫県立大学防災教育研究センター    |
|  | 細川 顕司 | (公財)市民防災研究所         |
|  | 松元 正博 | NPO法人『人・家・街 安全支援機構』 |
|  | 矢守 克也 | 京都大学防災研究所           |

## 【顧問】

|  |       |                 |
|--|-------|-----------------|
|  | 河田 恵昭 | 人と防災未来センター、関西大学 |
|  | 土岐 憲三 | 立命館大学           |
|  | 新野幸次郎 | 神戸都市問題研究所       |
|  | 林 春男  | 防災科学技術研究所       |

# 災害メモリアルアクションK0BE2016参加学生名簿

※五十音順

| グループ名                      | 氏名    | 所属                 |
|----------------------------|-------|--------------------|
| 兵庫県立舞子高校                   | 井手口健司 | 兵庫県立舞子高等学校         |
|                            | 中川 夏姫 | 兵庫県立舞子高等学校 (5期卒業生) |
|                            | 新山 琴音 | 兵庫県立舞子高等学校         |
|                            | 松本 美砂 | 兵庫県立舞子高等学校         |
|                            | 三井 唯菜 | 兵庫県立舞子高等学校         |
|                            | 山本 泰成 | 兵庫県立舞子高等学校         |
|                            | 山本ちひろ | 兵庫県立舞子高等学校         |
| 国立明石工業高等専門学校<br>防災団        | 今井 美佑 | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 木村 真悠 | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 神足 美友 | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 篠原 達也 | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 菅 智子  | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 多田 裕亮 | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 土田 晃平 | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 東條 翔  | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 中谷美穂子 | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 松尾 彰太 | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 松家 雅大 | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 松本 拓実 | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 松本 未来 | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 村岡 壮志 | 国立明石工業高等専門学校       |
|                            | 渡部桂太郎 | 国立明石工業高等専門学校       |
| 兵庫若者防災ネットワーク               | 上野 泰明 | 兵庫県立大学経済学部         |
|                            | 遠藤 正隆 | 神戸学院大学現代社会学部       |
|                            | 土肥 早稀 | 兵庫県立大学看護学部         |
|                            | 福田 諒  | 神戸大学法学部            |
|                            | 水野 綾香 | 神戸市外国語大学外国語学部      |
| 神戸学院大学現代社会学部<br>社会防災学科船木ゼミ | 井関 晃平 | 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 |
|                            | 岡本 大二 | 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 |
|                            | 陰平 将史 | 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 |
|                            | 瀬戸 絢大 | 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 |
|                            | 田中 航平 | 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 |
|                            | 谷口 太宣 | 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 |
|                            | 辻本 汐里 | 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 |
|                            | 松本 涼平 | 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 |
|                            | 光井 一成 | 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 |
| 関西大学社会安全学部<br>近藤研究室        | 上田 清加 | 関西大学社会安全学部         |
|                            | 尾崎 杏奈 | 関西大学社会安全学部         |
|                            | 折田 彩夏 | 関西大学社会安全学部         |
|                            | 高橋 拓也 | 関西大学社会安全学部         |
|                            | 田島 篤  | 関西大学社会安全学部         |
|                            | 中泉 圭幾 | 関西大学社会安全学部         |
|                            | 浜岡 篤史 | 関西大学社会安全学部         |
|                            | 濱本佳代子 | 関西大学社会安全学部         |
|                            | 弘瀬 雅教 | 関西大学社会安全学部         |
|                            | 松尾 晃大 | 関西大学社会安全学部         |
|                            | 松永 和樹 | 関西大学社会安全学部         |
|                            | 南野 光佑 | 関西大学社会安全学部         |
|                            | 山内 翔眞 | 関西大学社会安全学部         |
| 司 会                        | 磯見 朋香 | 松陰高等学校             |



# 交流会





災害メモリアルアクションKOBÉ

**ACTION**

**平成27年度 災害メモリアルアクションKOBÉ 報告書**

主 催：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター  
京都大学防災研究所自然災害研究協議会  
企 画：災害メモリアルアクションKOBÉ企画委員会

人と防災未来センター 事業部普及課内  
災害メモリアルアクションKOBÉ企画委員会  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2 西館6階  
Tel：078-262-5060 Fax：078-262-5082  
[http://www.dri.ne.jp/memorial\\_action\\_kobe](http://www.dri.ne.jp/memorial_action_kobe)